



平成20年3月期 第3四半期財務・業績の概況

平成20年1月23日

上場会社名 花王株式会社
コード番号 4452
代表者 代表取締役 社長執行役員 尾崎 元規
問合せ先責任者 会計財務部門 管理部長 青木 和義

上場取引所 東証一部
URL <http://www.kao.co.jp/>
TEL 03-3660-7111

(百万円未満切捨て)

1. 平成20年3月期第3四半期の連結業績 (平成19年4月1日 ~ 平成19年12月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年3月期第3四半期	1,000,114	7.3	96,125	△2.1	95,527	△3.1	53,696	△7.0
19年3月期第3四半期	931,672	24.9	98,152	△6.7	98,559	△8.0	57,724	△10.1
19年3月期	1,231,808	—	120,858	—	120,176	—	70,527	—

	1株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益
	円 銭	円 銭
20年3月期第3四半期	98.60	98.49
19年3月期第3四半期	105.92	105.83
19年3月期	129.41	129.29

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20年3月期第3四半期	1,247,648	584,640	46.0	1,061.70
19年3月期第3四半期	1,244,621	553,153	43.7	997.86
19年3月期	1,247,797	574,751	45.2	1,035.66

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年3月期第3四半期	125,324	△36,996	△71,030	104,462
19年3月期第3四半期	116,368	△47,979	△58,917	78,146
19年3月期	164,977	△63,227	△83,665	88,154

2. 配当の状況

当社は、四半期末を基準日とした配当を行っておりません。

配当予想に関しましては、平成19年10月23日に発表した平成20年3月期の予想を変更しておりません。

(基準日)	1株当たり配当金		
	中間期末	期 末	年 間
	円 銭	円 銭	円 銭
19年3月期	26.00	26.00	52.00
20年3月期	27.00	—	54.00
20年3月期(予想)	—	27.00	

3. 平成20年3月期の連結業績予想(平成19年4月1日～平成20年3月31日) 【参考】

1株当たり当期純利益を除き、平成19年10月23日に発表した平成20年3月期の連結業績予想を変更しておりません。
(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	1,310,000	6.3	114,000	△5.7	111,000	△7.6	66,000	△6.4	121.52

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動 : 有 (5ページをご参照ください)
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 0社 除外 1社 (社名 花王化粧品販売㈱)
- (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有 (5ページをご参照ください)
(内容) 退職給付引当金
- (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有 (5ページ及び9ページから
(内容) 「販売実績」及び「セグメント情報」における「事業区分」の変更 12ページをご参照ください)

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。世界経済・競合状況・為替・金利の変動等にかかわるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の予想数値と大幅に異なる可能性があります。
なお、連結業績予想に関する定性的情報は、5ページをご参照ください。
2. 平成20年1月23日開催の取締役会において、会社法の規定に基づき、自己株式を取得することを決議いたしました。(平成20年1月23日公表の「自己株式の取得に関するお知らせ」をご参照下さい。)
なお、「3. 平成20年3月期の連結業績予想」の1株当たり当期純利益は、当該自己株式取得の影響を考慮しております。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期(平成19年4月1日から平成19年12月31日まで)の売上高は、新製品の寄与などにより概ね順調に推移したこと、及びカネボウ化粧品の連結期間が前年同期の8ヶ月間から9ヶ月間となったことなどにより、前年同期より7.3%増の1兆1億円(為替変動の影響を除くと実質+5.4%)となりました。利益面では、天然油脂や石油化学原料を中心とした原材料価格上昇の影響を大きく受けましたが、高付加価値新製品の上市、ケミカル製品の価格改定やコストダウン活動などに一層努めた結果、**営業利益**は対前年同期20億円の減少に留まり961億円となりました。

なおEBITDA(営業利益+減価償却費)は、前年同期と比べてほぼ同額の1,652億円(対前年同期△1億円)となりました。

当第3四半期の海外子会社等の財務諸表項目(収益及び費用)の主な為替換算レートは、119.27円/米ドル、160.98円/ユーロでした。

【セグメント別の概況】

当社グループは、主要な市場である国内の少子高齢化、晩婚化や単身世帯の増加など、社会の仕組みの根底に関わる変化、また消費者の商品選択や購買の意識の変化、それに伴う流通の変化といった大きな動きに対応し、消費者起点に立った成長戦略をスピーディに力強く実践するために、当連結会計年度より、従来の家庭用製品事業と化粧品事業を統合してコンシューマープロダクツ事業とし、新たにビューティケア、ヒューマンヘルスケア、ファブリック&ホームケアの3つの事業区分にして、従来の工業用製品事業であるケミカル事業とともに4つの事業区分に改編しています。(各事業区分の主要製品は、11ページをご参照ください。)

コンシューマープロダクツ事業

売上高は、前年同期に対して5.7%増の8,323億円となりました。

国内では、消費者の多様な価値観の変化に対応した高付加価値新製品の上市やブランドの拡張、さらに家庭用製品と化粧品(花王ソフィーナ)の販売会社を統合したことによる総合的な提案力の向上、店頭マーチャンドライジングの新しいビジネスモデルの構築などによる販売体制の強化によって、売上高が5.0%増の6,682億円となりました。

アジアでは、新製品の寄与や流通との共同取り組みの強化などにより、売上高は20.5%増の637億円(為替変動の影響を除くと実質+11.6%)となりました。

欧米では、市場競争の激化による影響を受けましたが、売上高は4.3%増の1,126億円(為替変動の影響を除くと実質△1.8%)となりました。

営業利益は、天然油脂や石油化学原料を中心とした原材料価格上昇の影響を受けましたが、国内外で新製品などの増収効果やコストダウン活動などにより、ほぼ前年同期並みの801億円となりました。

【ビューティケア事業】

売上高は、前年同期に対して7.8%増の4,648億円となりました。

国内の売上高は、8.7%増の3,350億円となりました。プレステージ化粧品では、「インプレス」、「ルナソル」、「エスト」などのカウンセリングブランドや、「ケイト」、「エビータ」などのセルフブランドが好調に推移して売り上げを伸ばしました。プレミアムスキンケア製品では、洗顔・メイク落としの「ビオレ」や、新製品「家族みんなのうおいミルク」を加えた「ビオレu」、敏感肌用の「キュレル」が好調に推移しました。プレミアムヘアケア製品では、新ヘアケアブランド「セグレタ」にスペシャルケア製品を追加発売し、また東洋美容エッセンスに美髪テクノロジーを融合して大幅に改良した「アジェンス」が順調に推移したことや、「リーゼ」、「ケープ」などのヘアスタイリング剤も新製品を加えたことなどによって、売り上げを大幅に伸ばしました。

アジアでは、プレステージ化粧品が中国で百貨店、高級薬局流通チャネルにおいて積極的に事業拡大を行っていることや、洗顔料「ビオレ」が台湾やインドネシアなどを中心に好調に推移したこと、また台湾や香港で「アジェンス」ブランドに保湿新ラインを追加発売したことなどにより、売り上げを大幅に伸ばしました。

欧米の売上高は、為替の影響を除くと若干減少しました。プレミアムスキンケア製品は「ジャーゲンズ」、「キュレル」などのブランドで、新製品を追加発売しました。またプレミアムヘアケア製品の「ジョン・フリーダ」でも新製品及び改良品を発売し、欧州においては好調に推移しましたが、米国市場では競争激化の影響を受けて伸び悩みました。「モルトン・ブラウン」は、英国市場を中心に好調に推移し、売り上げを大きく伸ばさせました。

営業利益は、将来の成長のための戦略的なマーケティング費用の投入などもあり、前年同期を9億円下回る178億円となりました。

【ヒューマンヘルスケア事業】

売上高は、前年同期に対して4.4%増の1,494億円となりました。

国内の売上高は、前年同期に対して3.0%増の1,371億円となりました。フード&ビバレッジ製品では、健康機能飲料「へ

ルシア」に渋味を抑えた「ヘルシア緑茶 まろやか」を追加発売し、新規顧客の開拓に努めましたが、売り上げは減少しました。サニタリー製品のベビー用紙おむつは、より肌へのやさしさを訴求したマーケティング活動によって、引き続き消費者の支持を得て売り上げを拡大しました。パーソナルヘルス製品では、入浴剤「バブ 濃厚炭酸湯」や「めぐりズム 蒸気でホットアイマスク」を新発売したこと、また「サクセス 薬用シャンプー」シリーズにWリンス成分配合の新製品を加えたことなどによって売り上げは大幅に伸びました。

アジアでは、生理用品「ロリエ」がタイ、マレーシアや中国などで好調に推移し、売り上げを伸長させました。営業利益は、増収効果などにより前年同期を15億円上回る129億円となりました。

【ファブリック&ホームケア事業】

売上高は、前年同期に対して2.3%増の2,180億円となりました。

国内の売上高は、前年同期に対して0.4%増の1,960億円となりました。ファブリックケア製品では、忙しい消費者の生活スタイルに合わせた衣料用洗剤と柔軟仕上げ剤からなる「スタイルフィット」を新発売しました。しかしながら、衣料用洗剤では店頭販売価格の下げ止まりがみえる一方で、引き続き厳しい市場競争が続いており、売り上げは横ばいとなりました。ホームケア製品では、新製品の自動食器洗い機用洗剤の「キュキュット パワージェル」や、住居用ワイパーの「クイックルワイパー ハンディ」などが売り上げを伸ばしました。

アジアでは、タイで好調に推移している衣料用洗剤「アタック イージー」に加えて「アタック ソフトプラス」を新発売し、また中国でも販売体制強化の効果が現われており、売上高を大きく伸長させました。

営業利益は、原材料価格上昇の影響を受けたものの、増収効果などによりほぼ前年同期並みの492億円となりました。

ケミカル事業

ケミカル事業は、グローバルに特徴ある強い事業に引き続き注力した結果、売上高は前年同期に対して16.7%増の1,948億円となりました。油脂製品や機能材料製品において、天然油脂や石油化学原料価格の上昇を受けて、販売価格の改定に努めました。

国内の売上高は、前年同期に対して10.2%増の973億円となりました。油脂製品では、油脂アルコール、油脂アミンが好調に推移しました。機能材料製品では、プラスチック用添加剤やコンクリート用高性能減水剤が売り上げを伸ばしました。スペシャルティケミカルズ製品では、電子部品用洗浄剤が対象業界の在庫調整の影響を受けましたが、ハードディスク用研磨剤やインクジェットプリンターインク用色材が伸長しました。

アジアでは、売上高は前年同期に対して34.4%増の543億円（為替変動の影響を除くと実質+24.9%）となりました。油脂アルコールは、需要の拡大に対応したフィリピンでの生産設備の増強により販売数量を伸ばすと同時に、販売価格の改定にも努めたことで、売り上げを大幅に伸ばしました。

欧米では、売上高は前年同期に対して19.7%増の737億円（為替変動の影響を除くと実質+10.8%）となりました。油脂アルコール、油脂アミン及びトナー・トナーバインダーが好調に推移しました。

営業利益は、原料価格上昇の中で、販売価格の改定やコストダウンなどに努めましたが、前年同期を24億円下回る157億円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

総資産は、前連結会計年度末とほぼ同額の1兆2,476億円となりました。主な増加要因は、売上高の増加などに関連した受取手形及び売掛金、及び原材料価格上昇の影響などを受けたたな卸資産であり、主な減少要因は知的財産権やのれんの償却が進んだことによる無形固定資産の減少です。

負債は、前連結会計年度末に比べ100億円減少し6,630億円となりました。主な増加要因は支払手形及び買掛金、未払費用、未払法人税等であり、主な減少要因は借入金の返済によるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ98億円増加し、5,846億円となりました。主な増加要因は、四半期純利益であり、主な減少要因は配当と自己株式の取得など株主還元によるものです。以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の45.2%から46.0%となりました。

営業活動によって得られたキャッシュ・フローは、1,253億円となりました。主に、税金等調整前四半期純利益が941億円、減価償却費が691億円、及び仕入債務の増加が42億円であったことと、一方で売上債権の増加が139億円、たな卸資産の増加が113億円、及び法人税等の支払いが271億円であったことによるものです。

投資活動に使用されたキャッシュ・フローは、369億円となりました。主なものとしては、有形・無形固定資産の取得による315億円です。

財務活動に使用されたキャッシュ・フローは、710億円となりました。これは主として借入金の減少279億円、自己株式の取得158億円、及び配当金の支払283億円によるものです。

以上の結果、当第 3 四半期末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ163億円増加し、1,044億円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第 3 四半期連結業績は、通期業績予想の達成に向けてほぼ順調に推移しました。しかし、天然油脂や石油化学原料などの原材料価格は、引き続き上昇しており、不透明感があります。それらのインパクトを吸収するために、売り上げの拡大やコストの効率化などの企業努力を継続し、通期業績予想値の達成を目指してまいります。

従いまして、自己株式の取得によって変動する 1 株当たり当期純利益を除き、連結業績予想は、中間決算発表時の計画(平成19年10月23日発表)を変更しておりません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

除外 1 社：花王化粧品販売㈱

花王販売㈱を存続会社、花王化粧品販売㈱を消滅会社とする吸収合併を行い、同時に花王販売㈱は社名を花王カスタマーマーケティング㈱に変更しております。

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無

四半期連結財務諸表等の作成に際しては、中間連結財務諸表等の作成基準をベースとしつつ、以下の簡便な手続を採用しております。

退職給付引当金の計上基準：当社及び主要な連結子会社においては、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当第 3 四半期末において発生していると認められる額を計上しております。

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

「販売実績」及び「セグメント情報」における「事業区分」を変更しております。
詳細は、9 ページから12ページをご参照ください。

5. (要約) 四半期連結財務諸表

(1) (要約) 四半期連結貸借対照表

科 目	前第3四半期末 (平成18年12月31日現在)		当第3四半期末 (平成19年12月31日現在)		前連結会計年度末 (平成19年3月31日現在)		増減 (△印減)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)
(資産の部)							
I 流動資産	395,526	31.8	443,661	35.6	402,219	32.2	41,442
現金及び預金	53,971		46,457		49,910		△3,453
受取手形及び売掛金	163,482		172,223		158,497		13,725
有価証券	22,180		54,442		36,247		18,194
たな卸資産	108,815		123,668		112,114		11,553
その他	47,076		46,871		45,448		1,422
II 固定資産	849,061	68.2	803,933	64.4	845,518	67.8	△41,584
有形固定資産	287,045		280,580		289,016		△8,436
無形固定資産	450,628		411,663		442,469		△30,806
のれん	258,303		243,794		256,326		△12,532
その他	192,324		167,869		186,142		△18,273
投資その他の資産	111,387		111,690		114,032		△2,342
III 繰延資産	33	0.0	52	0.0	58	0.0	△6
資産合計	1,244,621	100.0	1,247,648	100.0	1,247,797	100.0	△148
(負債の部)							
I 流動負債	306,741	24.7	327,122	26.2	308,646	24.7	18,475
支払手形及び買掛金	110,439		114,290		110,158		4,132
短期借入金	22,624		25,338		21,877		3,461
一年以内に返済予定の 長期借入金	22,827		22,056		22,062		△5
未払費用	85,170		91,377		85,796		5,580
その他	65,680		74,059		68,751		5,307
II 固定負債	384,726	30.9	335,885	26.9	364,399	29.2	△28,513
社債	99,995		99,996		99,995		0
長期借入金	232,690		180,793		211,774		△30,981
退職給付引当金	30,573		31,782		30,987		794
その他	21,467		23,314		21,642		1,672
負債合計	691,468	55.6	663,007	53.1	673,046	53.9	△10,038
(純資産の部)							
I 株主資本	560,485	45.0	583,554	46.8	573,541	46.0	10,012
資本金	85,424	6.8	85,424	6.9	85,424	6.9	—
資本剰余金	109,572	8.8	109,603	8.8	109,565	8.8	38
利益剰余金	375,781	30.2	413,389	33.1	388,585	31.1	24,803
自己株式	△10,293	△0.8	△24,862	△2.0	△10,033	△0.8	△14,829
II 評価・換算差額等	△16,704	△1.3	△9,484	△0.8	△9,010	△0.7	△474
その他有価証券評価差額金	4,801	0.4	3,659	0.3	4,649	0.4	△990
為替換算調整勘定	△21,505	△1.7	△13,144	△1.1	△13,659	△1.1	515
III 新株予約権	301	0.0	598	0.1	301	0.0	297
IV 少数株主持分	9,070	0.7	9,972	0.8	9,917	0.8	54
純資産合計	553,153	44.4	584,640	46.9	574,751	46.1	9,889
負債純資産合計	1,244,621	100.0	1,247,648	100.0	1,247,797	100.0	△148

(注) 増減は、当第3四半期末と前連結会計年度末との比較で表示しております。

(2) (要約) 四半期連結損益計算書

科 目	前第3四半期 (自 平成18年4月1日 至 平成18年12月31日)		当第3四半期 (自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)		増減 (△印減) 金額 (百万円)	前連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	
	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)		金額 (百万円)	百分比 (%)
I 売上高	931,672	100.0	1,000,114	100.0	68,441	1,231,808	100.0
II 売上原価	377,522	40.5	416,622	41.7	39,100	503,271	40.9
売上総利益	554,150	59.5	583,492	58.3	29,341	728,536	59.1
III 販売費及び一般管理費	455,997	49.0	487,366	48.7	31,369	607,678	49.3
営業利益	98,152	10.5	96,125	9.6	△2,027	120,858	9.8
IV 営業外収益	4,664	0.5	4,828	0.5	164	6,273	0.5
受取利息及び受取配当金	1,640		2,316		675	2,297	
持分法による投資利益	—		63		63	—	
為替差益	391		125		△265	504	
その他	2,632		2,323		△308	3,471	
V 営業外費用	4,258	0.4	5,426	0.5	1,167	6,955	0.5
支払利息	3,265		4,700		1,434	5,032	
持分法による投資損失	108		—		△108	703	
その他	884		726		△158	1,219	
経常利益	98,559	10.6	95,527	9.6	△3,031	120,176	9.8
VI 特別利益	796	0.1	331	0.0	△465	1,851	0.1
VII 特別損失	2,221	0.3	1,735	0.2	△485	4,900	0.4
税金等調整前四半期 (当期) 純利益	97,134	10.4	94,123	9.4	△3,010	117,127	9.5
法人税等	38,396	4.1	39,557	3.9	1,160	45,122	3.7
少数株主利益(減算)	1,013	0.1	869	0.1	△143	1,476	0.1
四半期(当期) 純利益	57,724	6.2	53,696	5.4	△4,027	70,527	5.7

(注) 増減は、当第3四半期と前第3四半期との比較で表示しております。

(3) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	前第3四半期 (自 平成18年4月1日 至 平成18年12月31日)	当第3四半期 (自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)	前連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前四半期(当期)純利益	97,134	94,123	117,127
減価償却費	67,295	69,163	92,171
受取利息及び受取配当金	△1,640	△2,316	△2,297
支払利息	3,265	4,700	5,032
売上債権の増減額(増加:△)	△31,836	△13,903	△24,308
たな卸資産の増減額(増加:△)	△1,439	△11,367	△3,189
前払年金費用の増減額(増加:△)	△11,801	4,973	△10,163
仕入債務の増減額(減少:△)	12,920	4,272	11,315
退職給付引当金の増減額(減少:△)	966	781	1,219
その他	16,409	4,426	21,816
小計	151,271	154,853	208,725
利息及び配当金の受取額	1,916	2,292	3,100
利息の支払額	△2,706	△4,713	△4,578
法人税等の支払額	△34,113	△27,108	△42,269
営業活動によるキャッシュ・フロー	116,368	125,324	164,977
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有価証券・投資有価証券の取得による支出	△631	△2,103	△1,638
有価証券・投資有価証券の償還及び売却による収入	14	3,097	11
有形・無形固定資産の取得による支出	△52,332	△31,596	△65,470
有形固定資産の売却による収入	320	751	2,078
短期貸付金の増減額(増加:△)	12,161	△779	11,928
長期貸付による支出	△762	△1,738	△1,550
その他	△6,749	△4,628	△8,586
投資活動によるキャッシュ・フロー	△47,979	△36,996	△63,227
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
借入金の増減額(減少:△)	△131,049	△27,953	△154,319
社債の発行による収入	99,676	—	99,676
自己株式の取得による支出	△773	△15,840	△1,085
配当金の支払額	△27,423	△28,333	△29,146
その他	652	1,096	1,208
財務活動によるキャッシュ・フロー	△58,917	△71,030	△83,665
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	1,148	△988	2,542
V 現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	10,619	16,308	20,627
VI 現金及び現金同等物の期首残高	67,527	88,154	67,527
VII 現金及び現金同等物の期末残高	78,146	104,462	88,154

(4) 販売実績

事業区分	前第3四半期 (自平成18年4月1日 至平成18年12月31日) (百万円)	当第3四半期 (自平成19年4月1日 至平成19年12月31日) (百万円)	増減率 (%)	前連結会計年度 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日) (百万円)
コンシューマープロダクツ事業				
ビューティケア事業	308,183	335,085	8.7	416,085
ヒューマンヘルスケア事業	133,123	137,117	3.0	170,008
ファブリック&ホームケア事業	195,320	196,055	0.4	245,255
日本計	636,627	668,259	5.0	831,348
アジア	52,880	63,724	20.5	72,025
欧米	108,017	112,638	4.3	148,710
内部売上消去等	△10,135	△12,269	—	△14,673
計	787,389	832,353	5.7	1,037,411
ケミカル事業				
日本	88,373	97,369	10.2	116,933
アジア	40,460	54,369	34.4	55,830
欧米	61,619	73,774	19.7	82,935
内部売上消去等	△23,465	△30,691	—	△32,089
計	166,988	194,821	16.7	223,609
小計	954,377	1,027,174	7.6	1,261,020
消去	△22,705	△27,060	—	△29,212
連結売上高	931,672	1,000,114	7.3	1,231,808

(5) セグメント情報

事業の種類別セグメント情報

前第3四半期(自平成18年4月1日至平成18年12月31日)

	コンシューマープロダクツ事業				ケミカル事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
	ビューティ ケア事業 (百万円)	ヒューマン ヘルスケア 事業 (百万円)	ファブリック &ホームケア 事業 (百万円)	小計 (百万円)				
売上高								
(1)外部顧客に対する売上高	431,116	143,201	213,071	787,389	144,282	931,672	—	931,672
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	22,705	22,705	(22,705)	—
計	431,116	143,201	213,071	787,389	166,988	954,377	(22,705)	931,672
営業費用	412,317	131,718	163,598	707,634	148,744	856,379	(22,859)	833,519
営業利益	18,798	11,482	49,473	79,754	18,243	97,998	154	98,152
営業利益率(%)	4.4	8.0	23.2	10.1	10.9	10.3	—	10.5

当第3四半期(自平成19年4月1日至平成19年12月31日)

	コンシューマープロダクツ事業				ケミカル事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
	ビューティ ケア事業 (百万円)	ヒューマン ヘルスケア 事業 (百万円)	ファブリック &ホームケア 事業 (百万円)	小計 (百万円)				
売上高								
(1)外部顧客に対する売上高	464,872	149,443	218,037	832,353	167,761	1,000,114	—	1,000,114
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	27,060	27,060	(27,060)	—
計	464,872	149,443	218,037	832,353	194,821	1,027,174	(27,060)	1,000,114
営業費用	447,036	136,458	168,738	752,234	179,074	931,308	(27,319)	903,989
営業利益	17,836	12,984	49,298	80,118	15,747	95,866	259	96,125
営業利益率(%)	3.8	8.7	22.6	9.6	8.1	9.3	—	9.6

前連結会計年度(自平成18年4月1日至平成19年3月31日)

	コンシューマープロダクツ事業				ケミカル事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
	ビューティ ケア事業 (百万円)	ヒューマン ヘルスケア 事業 (百万円)	ファブリック &ホームケア 事業 (百万円)	小計 (百万円)				
売上高								
(1)外部顧客に対する売上高	584,284	183,607	269,519	1,037,411	194,396	1,231,808	—	1,231,808
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	29,212	29,212	(29,212)	—
計	584,284	183,607	269,519	1,037,411	223,609	1,261,020	(29,212)	1,231,808
営業費用	554,441	171,795	211,703	937,940	202,429	1,140,369	(29,419)	1,110,949
営業利益	29,842	11,811	57,816	99,470	21,180	120,650	207	120,858
営業利益率(%)	5.1	6.4	21.5	9.6	9.5	9.6	—	9.8

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分は、製品の種類・性質及び販売方法の類似性を考慮し、コンシューマープロダクツ事業（ビューティケア事業、ヒューマンヘルスケア事業、ファブリック&ホームケア事業）、ケミカル事業に区分しております。

2. 各事業区分の主要製品

事業区分		主要製品	
コンシューマー プロダクツ事業	ビューティケア事業	プレステージ化粧品	カウンセリング化粧品、セルフ化粧品
		プレミアムスキンケア製品	化粧石けん、洗顔料、全身洗浄料
		プレミアムヘアケア製品	シャンプー、リンス、ヘアケア製品、ヘアカラー
	ヒューマンヘルスケア事業	フード&ビバレッジ製品	食用油、飲料
		サニタリー製品	生理用品、紙おむつ
		パーソナルヘルス製品	入浴剤、歯みがき・歯ブラシ、男性化粧品
ファブリック&ホームケア事業	ファブリックケア製品	衣料用洗剤、洗濯仕上げ剤	
	ホームケア製品	台所用洗剤、住居用洗剤、掃除用紙製品、業務用製品	
ケミカル事業	油脂製品	油脂アルコール、油脂アミン、脂肪酸、グリセリン、業務用食用油脂	
	機能材料製品	界面活性剤、プラスチック用添加剤、コンクリート用高性能減水剤	
	スペシャルティケミカルズ製品	トナー・トナーバインダー、インクジェットプリンターインク用色材、香料	

3. 事業区分の変更

従来、事業の種類別セグメントの事業区分は「家庭用製品事業」「化粧品事業」「工業用製品事業」の3事業区分に分類しておりましたが、平成19年4月1日の当社の組織再編に伴い、「コンシューマープロダクツ事業」としての「ビューティケア事業」、「ヒューマンヘルスケア事業」及び「ファブリック&ホームケア事業」と、「ケミカル事業」の4事業区分に変更しております。この組織再編は、市場での少子・高齢化、晩婚化や単身世帯の増加など、社会の仕組みの根底に関わる変化、また消費者の商品選択や購買の意識の変化、それに伴う流通の変化といった大きな動きに対応し、消費者起点に立った成長戦略をスピーディに力強く実践するためのものです。この組織再編に伴う事業区分の変更は、当社グループの経営管理の実態を適正に表示するためのものです。

4. 従来の事業区分の方法による前第3四半期及び前連結会計年度の事業の種類別セグメント情報は、以下のとおりであります。

前第3四半期（自平成18年4月1日 至平成18年12月31日）

	家庭用 製品事業 (百万円)	化粧品 事業 (百万円)	工業用 製品事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	576,440	210,949	144,282	931,672	—	931,672
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	22,705	22,705	(22,705)	—
計	576,440	210,949	166,988	954,377	(22,705)	931,672
営業費用	494,312	213,322	148,744	856,379	(22,859)	833,519
営業利益	82,127	△2,372	18,243	97,998	154	98,152
営業利益率(%)	14.2	△1.1	10.9	10.3	—	10.5

前連結会計年度 (自 平成18年 4 月 1 日 至 平成19年 3 月31日)

	家庭用 製品事業 (百万円)	化粧品 事業 (百万円)	工業用 製品事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	744,747	292,663	194,396	1,231,808	—	1,231,808
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	29,212	29,212	(29,212)	—
計	744,747	292,663	223,609	1,261,020	(29,212)	1,231,808
営業費用	645,817	292,146	202,429	1,140,393	(29,443)	1,110,949
営業利益	98,930	516	21,180	120,627	231	120,858
営業利益率(%)	13.3	0.2	9.5	9.6	—	9.8

従来の各事業区分の主要製品

事業区分	売上区分	主要製品
家庭用製品事業	パーソナルケア製品	化粧石けん、洗顔料、全身洗淨料、シャンプー、リンス、ヘアケア製品、ヘアカラー、入浴剤、歯みがき・歯ブラシ、男性化粧品
	ハウスホールド製品	衣料用洗剤、台所用洗剤、住居用洗剤、洗濯仕上げ剤、掃除用紙製品
	サニタリーほか製品	生理用品、紙おむつ、食用油、飲料
化粧品事業	化粧品	カウンセリング化粧品、セルフ化粧品
工業用製品事業	工業用製品	業務用食用油脂、脂肪酸、油脂アルコール、グリセリン、油脂アミン、界面活性剤、ポリウレタン原料、合成樹脂用可塑剤、トナー・トナーバインダー、香料